

令和2年2月15日 / 毎月1回15日発行

医師と医師会を結ぶ情報紙

# 都医 NEWS

Vol. 648

令和元年度 東京都在宅療養推進シンポジウム	01
底流 / 地区医師会長連絡協議会報告 ほか	02
令和元年 東京都医師会役員就任披露	
ならびに年末懇親会 ほか	03
第3期 東京在宅医療塾 (第2回) ほか	04
みどりの広場 ほか	05
ふれあいポスト	06
都医からのお知らせ ほか	07
地区医師会長からの一言	08

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部75円



国立競技場

撮影：大畑隆郎 (板橋区医師会)

## 令和元年度 東京都在宅療養推進シンポジウム



講演をする池上氏



会場の様子

池上氏は「患者・家族の立場から」として介護の経験を通じて在宅療養が本人のQOLを改善した過程と本人・家族の思いについて講演があった。

冒頭に尾崎治夫会長と田中敦子東京都福祉保健局長より開会の挨拶があった。司会の土谷明理事の進行で行われ、第一部は、新田國夫東京都在宅療養推進会議会長から「人生会議をどう考えるか」と題してACPの本質に迫る」と題したACPの総論、自らの母親を在宅で介護する池上清子氏より「患者・家族の立場から」として介護の経験を通じて在宅療養が本人のQOLを改善した過程と本人・家族の思いについて講演があった。



パネルディスカッションの様子

55名であり、専門職以外の参加を得るのが困難という毎回の課題が残り、周知方法の再考を要するところである。

博之副会長の閉会の辞で盛会のうちに終了した。高齢者の年間死亡数は今後さらに増加を続ける。都民の多くが病院で最期を迎える現状は今後継続できなくなるだろう。平成28年東京都調査によると、38%の都民は「自宅で最期を迎えたい」と考えているが、実際に最期まで自宅で過ごせた方は17%であり、72%の方は病院で亡くなる期間において70%の方はすでに意思表示が困難な状態であるとする報告もあり、終末期に至る前に事前意思表示を行う必要がある。受けたら医療やケア、受けたくない医療やケア、意思表示が困難になった場合に意思決定権を委ねたい人、最期まで暮らしたい場所、自分の健康観や人生観等を、自分に関わっている医療・介護職や家族とともに共有しておくことが重要である。

平成21年より東京都と東京都医師会の共催で毎年開催されている東京都在宅療養推進シンポジウムが、11月30日(土)、東京都医師会館にて開催された。今年度のテーマは「アドバンス・ケア・プランニング(以下ACP)で、都民にとつての『人生会議』をどう考えるか」と題して本人の意思決定のために」と題した企画で、参加者は都民4名、医師30名、看護師24名、介護支援専門員19名、薬剤師4名、歯科衛生士3名、MSW11名、行政29名、その他31名、計155名であり、専門職以外の参加を得るのが困難という毎回の課題が残る。その後、新田会長を座長として壇上でシンポジストによるディスカッションが行われ、最後に平川博之副会長の閉会の辞で盛会のうちに終了した。高齢者の年間死亡数は今後さらに増加を続ける。都民の多くが病院で最期を迎える現状は今後継続できなくなるだろう。平成28年東京都調査によると、38%の都民は「自宅で最期を迎えたい」と考えているが、実際に最期まで自宅で過ごせた方は17%であり、72%の方は病院で亡くなる期間において70%の方はすでに意思表示が困難な状態であるとする報告もあり、終末期に至る前に事前意思表示を行う必要がある。受けたら医療やケア、受けたくない医療やケア、意思表示が困難になった場合に意思決定権を委ねたい人、最期まで暮らしたい場所、自分の健康観や人生観等を、自分に関わっている医療・介護職や家族とともに共有しておくことが重要である。

### 都民にとつての「人生会議」をどう考えるか 〜本人の意思決定のために〜

に事前意思表示を行う必要がある。受けたら医療やケア、受けたくない医療やケア、意思表示が困難になった場合に意思決定権を委ねたい人、最期まで暮らしたい場所、自分の健康観や人生観等を、自分に関わっている医療・介護職や家族とともに共有しておくことが重要である。

# 底流

## 医師会の役割・使命について

切れ目のない全世代型社会保障を推進し、生活者を支える医療提供体制と地域包括ケアを実現するため、医師会の事業活動を発信する必要がある。

日本の医師会組織は三層構造のため、東京都医師会は日本医師会の情報を地区医師会に伝え、地区医師会の意見や要望を日本医師会に伝える立場にある。また、地区医師会、大学医師会等と意見交換する場を持ち、それぞれの医師会と共に活性化し、強化していく役割がある。

尾崎治夫会長は3期目の就任にあたり、地域医療現場からの貴重な声を活かし、「東京から日本の医療を変えていく」という使命感と行動力、医療政策の実現に向け総力をあげて邁進すると述べている。これからは、切れ目のない全世代型社会保障を推進していくことが医師会の使命であり、生活者を支える医療提供体制と地域包括ケアの実現を目指していくには、医師会を担うべきである。

## 地区医師会長連絡協議会報告

令和2年1月17日(金)

### ◎都医からの伝達事項

(1) 中国湖北省武漢市で報告されている原因不明の肺炎に対する対応と院内感染対策について

国立感染症研究所・国立国際医療研究センターにおいて、中国湖北省武漢市で報告されている原因不明の肺炎に対する対応と院内感染対策が取りまとめられたので、会員

の周知をお願いする。また、保健所への報告に該当する患者を診察した場合は、管轄の保健所まで連絡してほしい。

(2) 風しん抗体検査受検勧奨普及啓発ポスター等の送付について

東京都では風しんの予防対策を一層徹底することを目的として、風しん抗体検査受検勧奨普及啓発ポスターおよびリーフレットを作成した。東京都から地区医師会に送付されるので、会員への配布をお願いする。

(3) ショスリン糖尿病研修会の開催について

糖尿病非専門医向けの標記研修会を4月5日(日)、9月13日(日)の午前10時より東京都医師会館で開催する。本研修会には糖尿病非専門医

をおよび同施設の看護師もしくは医療関係者が一緒に参加し、患者の同意のもと、自院の2型糖尿病患者の匿名化したデータを持ち寄り、2回のワークショップを通じて糖尿病診療における課題の抽出・課題の克服のための方策を作成し、その検証を行う。会員への周知をお願いする。

(4) オンライン資格確認システム説明会について

厚生労働省は、令和3年3月に開始予定のオンライン資格確認について、個々の医療機関等へ説明する前に、都道府県ブロックの主な関係者(医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院団体)を対象とした説明会を1月10日(金)に開催した。

(5) 東京2020大会ラストマイル等の医療支援への協

ついて会長らが大学を訪れて説明する出張講義を行っている。聴講した医学生の感想文には、「医師会の名前は知っているが実態は分からず、また勤務医ではなく開業医の団体、自分たちの権利や利益を主張するだけの圧力団体等の認識であったが、講義を受けてからは、将来医師会の活動に参加したいと思うようになった」という声も多く見られた。若い世代が医療制度、地域医療、医師会活動等について講義を受け、理解し、意識を持つことは、将来の医師会の担い手として大切なことだ。

地域住民については、個人の医師と患者との関係は、かかりつけ医機能も浸透しつつあり概ね良好な関係にあるが、医師会という団体の活動については、あまり知られていない。今後も東京都医師会や地区医師会が主催している都民、区民、市民公開講座の場を利用して、直接住民へ医師会活動の一端を積極的に伝えていくことも医師会の役割である。

(6) 風しんの追加的対策に係る令和元年度に発行されたクーポン券の取扱いについて

風しんの追加的対策に係るクーポン券の取扱いについて、日本医師会より通知が発出されたが、内容を照会中であるので、その後、地区医師会に通知する。

力について「大会期間中に設置する救護所への出務依頼について(第1報)および「大会期間中の診療時間延長について(調査依頼)」

### ◎地区医師会からの報告

(1) 中央ブロック  
千代田区医師会  
①「千代田区ごとのための防災イベント」について

依頼するので、協力をお願いする。

(2) 城東ブロック  
千代田区医師会  
②「向精神薬の不正処方要求について」の途中経過報告について

「都医ニュース2号」をお持ちの方は「報ください」

## 令和2年 診療報酬改定講習会および診療報酬改定に伴う集団指導

**対象**  
東京都内の保険医療従事者および事務担当者  
※事前申込不要(関東信越厚生局東京事務所から送付される出席票(3月上旬送付予定)を持参)  
※1医療機関1名、先着順により会場の定員になり次第締め切り

**内容**

**第1部**  
令和2年 診療報酬改定の経緯について (10分)

**第2部**  
(1) 令和2年 診療報酬点数表の改定について (80分)  
(2) 施設基準及び届出事項について (45分)

**第1回 3月24日(火) 14:00~16:15(開場13:00)**  
会場: 新宿文化センター 大ホール  
対象: 千代田区、中央区、港区、文京区、台東区、品川区、大田区、豊島区、島しょ(大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村)

**第2回 3月24日(火) 18:30~20:45(開場17:30)**  
会場: 新宿文化センター 大ホール  
対象: 新宿区、目黒区、世田谷区、渋谷区、中野区、杉並区、北区

**第3回 3月25日(水) 14:00~16:15(開場13:00)**  
会場: 新宿文化センター 大ホール  
対象: 墨田区、江東区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区

**第4回 3月25日(水) 18:30~20:45(開場17:30)**  
会場: 新宿文化センター 大ホール  
対象: 東京都全地域

**第5回 3月27日(金) 14:00~16:15(開場13:00)**  
会場: たましんRISURUホール  
対象: 立川市、三鷹市、青梅市、府中市、調布市、町田市、小平市、福生市、東久留米市、稲城市、あきる野市、羽村市、西東京市、瑞穂町、日の出町、松原村、奥多摩町

**第6回 3月27日(金) 18:30~20:45(開場17:30)**  
会場: たましんRISURUホール  
対象: 八王子市、武蔵野市、昭島市、小金井市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、狛江市、東大和市、清瀬市、武蔵村山市、多摩市



東京都医師会広報学術情報課 ☎03-33294-8821

# 令和元年 東京都医師会役員就任披露 ならびに年末懇親会

12月16日(月)、都内のホテルにおいて、令和元年東京都医師会役員就任披露ならびに年末懇親会が600名を超える出席者を迎え盛大に開催された。司会進行は連沼剛理事と天木聡理事が務めた。

猪口正孝副会長が開会の挨拶を行い、今期から新たに加わった4名の理事を含めた役員および代議員会議長、副議長が選出されたことの報告と就任披露が行われた。尾崎治



挨拶をする尾崎会長

医療や、外国からの観光客が増えることから特に感染症対策としてMRワクチン接種の推奨など麻しん・風しん対策に力を入れていくと述べ、さらに心のバリアフリーにも取り組むたいと力強く呼びかけた。



開会の辞を述べる猪口副会長

夫会長は挨拶で、来年度のオリンピック・パラリンピックに向けて大会中の熱中症対策に万全の対策を模索し取り組んでいること、またオリンピック・パラリンピックのレガシーとしてタバコ対策に取り組んだ結果、日本で最も厳しい条例が東京で制定されたことを語った。またオリンピックに因る運動による予防



閉会の辞を述べる角田副会長

層の努力を重ねると誓われました。櫻井秀也元日本医師会副会長は、「平成の30年間、医師会活動という大きな舞台の上で、野中先生と共に語り、共に議論し、共に喜び、共に悲しみ、そして互いに助け合って二人で一緒に戦ってきた」と、野中先生との足跡を振り返られました。



挨拶をする横倉日医会長

場の完成のお祝いが述べられ、日本医師会が東京都医師会の活動をバックアップし国民皆保険を守る決意が示された。続いて小池百合子東京都知事より、東京都医師会の活動への感謝と支持が語られた。さらに受動喫煙防止条例の4月からの全面施行、オリンピックの挨拶のあと乾杯となった。多数の来賓の方々を迎え、盛況のうちに角田副会長の挨拶で閉会となった。



役員および議長・副議長の紹介

## 野中博先生お別れの会

元日本医師会常任理事・理事、元東京都医師会会長、元浅草医師会会長の野中博先生(享年71歳)が令和元年7月29日にご逝去され、12月1日(日)、都内のホテルにおいてお別れの会が執り行われました。

黙祷に続き、発起人を代表して尾崎治夫会長より追悼の辞が述べられました。浅草で

の地域医療の実践を通して「治す医療」から「治し、支える医療」への転換を提言されるに至ったこと、常に患者さんの視点に立ち、人間の尊厳を尊重するよう諭して下さったことを挙げ、「野中先生の貫いたこれらの想いを皆が改めて共有し、都民のための医療に今後も邁進してまいります」と決意を示しました。

横倉義武日本医師会会長は、多くの功績を挙げられた中で、野中先生こそが介護保険制度の礎を築かれた最大の功労者の一人であると述べられました。またその策定に多大な貢献をされた日本医師会綱領に示された理念「医師としての高い倫理観と使命感を礎に、人間の尊厳が大切にされる社会の実現」を目指し一

層の努力を重ねると誓われました。櫻井秀也元日本医師会副会長は、「平成の30年間、医師会活動という大きな舞台の上で、野中先生と共に語り、共に議論し、共に喜び、共に悲しみ、そして互いに助け合って二人で一緒に戦ってきた」と、野中先生との足跡を振り返られました。

ご遺族代表として野中恵子氏より、「ご主人への思いと共に、皆様への感謝の言葉が述べられました。会場には先生の愛用の品が

展示され、思い出のスライドが上映される中、皆が野中先生への想いを語り合い、会は終始穏やかな雰囲気になり、包まれておりました。

野中博先生、本当にありがとうございました。どうぞ安らかに眠りください。



追悼の辞を述べる尾崎会長

# 第3期「東京在宅医療塾」

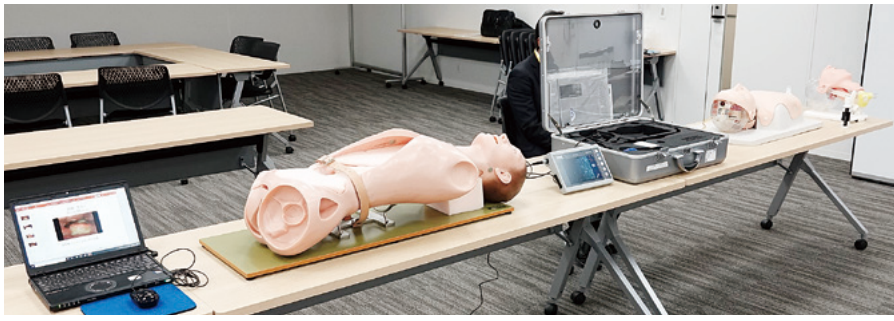
## 第2回多職種連携

第3期(2019年度)「東京在宅医療塾」第2回多職種連携が、各地区医師会からの受講者41名の参加を得て12月14日(土)に東京都医師会館にて開催された。

最初に田中千賀子氏(東京都訪問看護ステーション協会)から「訪問看護師との連携」、小島操氏(東京都介護支援専門員研究協議会)から「ケアマネジャーとの連携」の講義が行われ、在宅医療を共に担う中心的な職種同士の連携への理解を深めた。続いて、上野浩男氏(東京都薬剤師会)からは「医薬連携(かかりつけ薬局)」についての解説があり、最後に菊谷武氏(日本歯科大学)より、摂食嚥下機能支援についての講義があり、嚥下のみならず咀嚼の重要性が可視化された。多職種連携は鍵であり悩みでもあり、講師と受講者との意見交換が活発に行われた。

講義の合間には、東京都医師会館の医療トレーニングセンターに配備している在宅医療シミュレータを使い、講義に関連する嚥下内視鏡に焦点を当てたデモンストラクションが行われた。

第3期「東京在宅医療塾」



嚥下内視鏡および関連するシミュレータ

【東京都医師会ホームページ「東京在宅医療塾」】  
<https://www.tokyo.med.or.jp/zaitakuryoujuku>

※第2回「多職種連携」は、台風19号の影響により日程を10月12日から12月14日に変更して開催した。

# 令和元年度多摩地区医師会懇話会



櫻井府中市医師会会長

令和元年度多摩地区医師会懇話会が11月30日(土)、都内のホテルで開催された。

開会の辞は当番医師会の櫻井誠府中市医師会会長が務め、「平成30年の雲仙普賢岳火砕流に始まり、阪神・淡路大震災、三宅島噴火、新潟県中越

来賓挨拶は今村聡日本医師会副会長が行った。昨今の医療状況について「地域医療構想の中で、病院機能によって合理的に分化させる課題については、公的病院と民間病院

地震、東日本大震災、福島原発事故、御嶽山噴火、熊本地震、西日本豪雨があった。平穏無事であるべき平成とは裏腹な30年間は規模災害の多い時代であった。令和は安定した平和な時代を願う」と述べた。

引き続き尾崎治夫東京都医師会会長が挨拶した。「前回の東京オリンピックのレガシーは首都高速や新幹線などのインフラであった。今回のレガシーは東京都における他より厳しいタバコ対策、訪日外国人医療対策、感染症対策、地球温暖化に伴う熱中症対策、フレイル予防のためにも運動

## 第24回板橋区医師会医学会

12月7日(土)、8日(日)、板橋区立文化会館にて第24回板橋区医師会医学会が開催された。

1日目は多職種にわたる参加者が討論する場として演題発表が行われた。要望演題1は「チームで取り組む医療・介護」、要望演題2は「ACPを考える」とし、その他にも医療・介護に関する一般演題やポスター発表など合わせて92題の発表があった。また教育講演は、松永直久帝京大学医学部附属病院感染制御部部長が、「かかりつけ医の感染対策」と題して行った。

2日目は、妊婦や子育て世代のサポート、子ども達に起きている問題とそれに対する取り組みなどを紹介する区民公開講座が行われた。午前中は、まず宮川美知子東京小児科医会小児救急部担当理事・石川病院院長が「医療情報の入手方法(子育てや子供の発熱で困ったら?)」の講演を行い、続いて是枝裕和監督、福山雅治主演の映画『そして父になる』の上映があり、多くの区民が参加した。

午後の特別講演は、NHKアナウンサーから転身した内多勝康国立成育医療研究センターもみじの家ハウスマネージャーが「医療的ケアがあっても安心して暮らせる社会を目指して」を講演。続くシンポジウムは、「ネット依存・ゲーム障害の現状と対処」を



坂本板橋区長、内多氏との記念写真

テーマに依藤壽板橋区小児科医会会長と中山秀紀久里浜医療センター精神科医長が話し、シンポジウム2は「すくすく、のびのび、安心子育て」をテーマに、シンポジストとして、檜垣多希子板橋健康福祉センター保健指導係長、心身障害児総合医療療育センター小児精神科の長瀬美香氏、板橋区医師会病院小児科の泉裕之氏、特別発言として泉谷朋子東洋大学社会学部社会学福祉学助教が話した。

両日とも、多岐にわたる興味深い盛りだくさんのテーマを発信する場として、地域に根差した医学会であった。

で健康になるという意識改革である」と述べた。

高野律雄府中市長の挨拶では「医師会は行政に何を望むかというアンケートに高齢者福祉対策が長年挙げられている。府中市のみならず日本全体で医師会と連携して乗り越えていきたい」と決意を述べた。

日野佳昭府中市医師会副会長の乾杯の後、懇親が始まった。スペシャルステージではコーラスグループのサーカスによる歌が披露された。

次期当番医師会の佐々木伸彦調布市医師会会長の挨拶があり、野本和久府中市医師会副会長の閉会の辞で閉会となった。

143 みどりの広場

思春期・若年成人 (AYA) 世代のがん

国立国際医療研究センター がん総合診療センター 乳腺・腫瘍内科

清水千佳子



全国で年間に100万人の人が新たにがんを診断され、国民の2人に1人ががんに罹患する時代です。その中で15歳から39歳までのいわゆるAYA世代でがんを診断される人は、がんと診断される人全体の数%にすぎません。この世代は医療費負担や介護など制度上の支援が手薄であったため、平成30年に閣議決定された国のがん対策推進基本計

画には、AYA世代のがん医療の充実、がんとの共生のためのライフステージに応じた対策の推進といった方針が盛り込まれました(図)。現在、地域で、その方針を具体化する取り組みが始まったところ

春期の一部を除き、さまざまな成人診療科に患者が分散しているのが特徴です。またAYA世代は、社会的に自立した存在としてのアイデンティティを確立していく、肉体的、精神的、社会的にも変化の大きいライフステージであり、がん治療は患者一人ひとりで違います。このように、AYA世代のがんは、がんの希少性、多様性だけでは

なく、個性性の高いニーズに対応する必要があるところに対応策の難しさがあります。さらに、がんの治療成績の改善に伴い、がん治療後も長期的な健康管理が必要であることも認識されるようになってきました。小児期発症の

は明白で、がん治療医とがん以外の専門家、地域医療に携わっている方々とのネットワークがとて重要になってきています。このように考えると、AYA世代のがん患者に対して包

括的な医療・ケアの提供体制を構築することは、壮大で気の遠くなるような作業のように感じますが、解決の糸口は、AYA世代が小児期もしくは高年齢の患者に比べて自立を志

向し、自律できる世代であることもかもしれません。医療従

事者が一方的に患者を管理するのではなく、患者自身が自分の健康情報を携え、自ら健康管理やケアに参加する意識と環境をつくる。そうすれば、

多様性、個性性、長期管理の必要性といったAYA世代のニーズの多くに対処できるのではないかと考えています。

今回紹介するお店は、西武新宿線田無駅南口から徒歩3分にある割烹よしむら。駅の北口はロータリーが整備された繁華街であるのに対して、南口は住宅地に接する静かなエリアである。入口の佇まいからして美味しいものを期待させる。店内は御主人をこの字

すの焼き物。合わせるお酒は、ぜひ日本酒を「有名なもの」というより、その時に美味しいものを揃えているように、ここで初めて口にすることも多い。新しい酒との出会いもまた酒呑みに嬉しい。

カウンター越しに目に入る職人の動きは手際よく、寡黙な御主人と相まって、ちょっと声がかげづらくなるが、決して不愛想ではなく時々見せる笑顔が心をさらほっこりさせる。そして最後に炊きたてのご飯、これがまた旨い。いけないと分かってしまったら、うちの子供はこの白米が大好きで、予約の段階で注文してしまおう(余談であるが、開店当初は、割とすぐに入れたが、最近では美味しさが知れ渡ってきたのか、予約が取りにくくなっているのが、ちょっと残念だ。ここで紹介したら、またしばらく食べられなくなるのかと心配している。



鰹と松茸のお椀

割烹よしむら

味も雰囲気も期待どおり

趣味の散歩

開店当初は、割とすぐに入れたが、最近では美味しさが知れ渡ってきたのか、予約が取りにくくなっているのが、ちょっと残念だ。ここで紹介したら、またしばらく食べられなくなるのかと心配している。

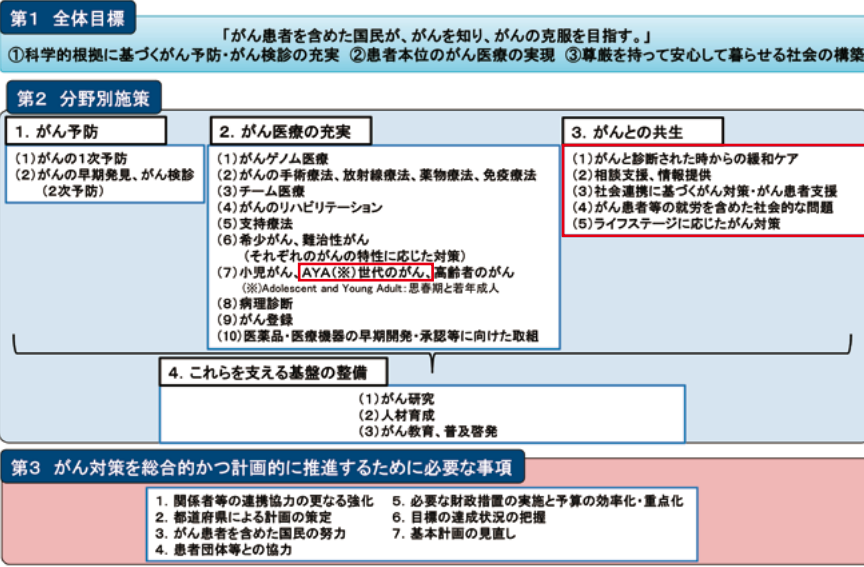
(西東京市医師会・伊藤正洋)

知ってますか?

応招義務

令和元年12月25日に厚生労働省より「応招義務をはじめとした診察治療の求めに対する適切な対応の在り方等について」と題する通知があり、医師法の「応招義務」の法的な整理が行われた。「患者を診察しないことが正当化される事例」は、緊急対応が必要な場合か否か、診療時間外・勤務時間外か否かの4パターンに分けて整理され、また、患者の迷惑行為、医療費不払い等の個別事例についても触れられている。

第3期がん対策推進基本計画(平成30年3月9日閣議決定)(概要)



都医ニュース表紙の写真を募集

本ニュースは毎月、季節に合った東京の写真を表紙に掲載しております。その表紙写真に、先生が撮影した写真を応募してみませんか? 都内の写真で、季節感のあるものをお願いします。本会広報委員会で掲載を決定いたします。なお、掲載された写真は、本会のホームページにも掲載させていただきます。

デジタルカメラやスマートフォンで撮影をした600万画素以上(横3000×縦2000ピクセル以上)のデジタルデータプリントサイズは、横235mm×縦137.5mm

応募・問い合わせ先

〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会 広報学術情報課 ☎03-3294-8821(代) kouhou@tokyo.med.or.jp

FM93 AM1242 ニッポン放送

月曜から金曜 あさ6時15分頃から 『モーニングライフアップ 今日の早起きドクター』 放送中!

ニッポン放送(AM1242kHz/FM93.0MHz)朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

番組ホームページ

http://www.1242.com/cozy/

ポッドキャスト

https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor



飯田浩司の OK! Cozy up!

# 心れあいポスト



各地区会報から

練馬区医師会 齋藤 肇

## 毒にも薬にもなる

若い頃から根っからの車好きで、京都や大阪などでやる学会には、わざわざ車で往復するのがひそかな楽しみだったりする私ですが、昨年末あたりから車好きには気になる言葉がメディアに登場するようになってきました。それが「コネクテッドカー」や「テレマティクス自動車保険」です。

コネクテッドカーとはICT(情報通信)端末としての機能を有する自動車のことで、車両の状態や周囲の道路状況などのさまざまなデータをセンサーにより取得し、ネットワークを介して集積・分析することで、新たな価値を生み出すことが期待されている車を意味します。昨年発売のトヨタ「クラウン」に本格的に実装されましたが、国内外のメーカーがこぞって準備を進めています。

国(総務省)も推進していますが、そのメリットとして①緊急通報システム、②盗難車両追跡システム、③テレマティクス自動車保険を挙げています。

事故発生時に自動で警察や消防などに緊急通報を行ってくれば、万一自分で連絡ができないような場合には大変ありがたい仕組みですし、盗難が発生した場合に車両の位置を追跡できれば事件の早期解決に役立つことでしょう。

また、まだあまりなじみのない「テレマティクス自動車保険」です

が、専用車載端末から得られた走行距離だけでなく、運転時間、速度や急ブレーキ、急ハンドルの有無などの情報を分析し、運転特性を評価。実際の走行距離に応じた保険料の細分化のみならず、安全運転者と判定されれば保険料が安くなり、反対に危険な運転をしていると判定されれば保険料が高くなる、等の仕組みを取り入れた自動車保険(テレマティクス自動車保険と言います)が実際に数社から販売されています。

これにより「あおり運転」などの危険な運転をすれば、保険料の値上がりという「痛み」がわが身に返ってくるので、おのずと運転マナーが改善されるかもしれません。

ただどうしても気になるのが、GPSと連動しているために常に第三者(自動車会社や警備会社、その気になれば、家族だけでなく国家権力などにも)自分の居場所や行動様式を把握されてしまうという点です。

私はいわゆる「ハンドルを握ると別人になる」というタイプではありませんが、仕事から離れた「オフ」の時間にも、ひと様の目を意識しなければならない時代になってきたと思うと、少しばかり憂鬱な気分になってしまいます。

(練馬区医師会だより 第611号から抜粋)

玉川医師会 谷 康寛

## レガシー

ちょうど原稿依頼のお話をいただいた頃だったと思います。我が家のレガシーが本格的に壊れ始めました。

2006年式16万km、今までクラッチ以外は大きなトラブルもなく、なんとなく10万km前後くらいから原因不明のオイル漏れが少量ありましたが、スバルの水平対向はそんなもんだから～と言われ放置していました。昨年に入ってから回した後にイヤな匂いがし始め、秋頃からはもくもく煙が出るようになりました。どうやらオイル漏れが多くなりフロントパイプに吹いて焦っていたようです。

皆に言われました。直すより新しいのを買った方がいいよと。

思い返すとレガシーを買う前、我が家にはRX-7というやや特殊な車が2台(自分と妻)で、これまたやや特殊な仕様になっていたの、街乗り用にレガシーを購入したのです。

買う前は普通に乗れて荷物も積めてまあまあ速い、そのくらいに考えていましたが、買ってみるとそれ以上のものが得られました。

当時の私は、車は運転を楽しむこと以外に何もなく、また移動はとにかく早くが基本で、妻と旅行に行くのも連台、途中休憩も必要最低限もしくは無しが普通でした。まあ若かったのかもしれませんが。

しかし、レガシーが来てからは車の性格なのか歳のせいかわからないに嫌がっていたSAや道の駅に何故かちよいちよいち寄る余裕が出てきて、おまけになんと1台で出掛けることができるようになりました。

運転以外の車の楽しみ方、そんな当たり前のことを教えてくれたのがレガシーでした。

まあ私が壊れていただけですけど。

そんな訳で、頭ではわかっているのですが思い入れが強く、誰か



ハバナ市内を走るクラシックカー

玉川医師会 荒井 誠

が乗ってくれるならまだしも潰されるのが必至なレガシーを手放したくもなく……、と考えていましたが、まあやっぱり車好きなので新しい車もいいなあと思いつつ目移りしているうちに結局買ってしまいました。レガシーごめんなさい。実はもう近々納車されます。残念ながらMTではないのですが、デュアルクラッチでブリッピングもしてくれて、いやあ楽しみです。レガシーごめんなさい。

今回は車の話で一般的でもなく、すみませんでした。ちなみにレガシーは下取りに出していません。まあ値段も付かないし解体費用もかさむだけだし……と言うのが表向きの理由ですが、やっぱり感傷的になってしまいました。とりあえず実家に眠らせています。

うーむ、どうしたものか…良案がございましたらご教授頂けると幸いです。

(玉医ニュース No.642から抜粋)

## 無声拝聴

## これからの医療

2015年の国連総会で、すべての人々が基礎的な保健医療サービスを受けられ、医療費の支払いにより貧困に陥るリスクを未然に防ぐことが目標の一つとして定められた。即ちユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）である。

目標実現のために、我が国の国民皆保険制度は世界各国から注目され、日本に指導的な立場が求められている。

少子高齢化・人口減少社会にあって、全世代型社会保障制度が検討されている。負担可能なコストで予防を含む適切な医療にアクセスできて、高齢になっても健康を維持して社会に参加し続けられる、活力ある健康長寿社会を実現して高齢化を乗り越えねばならない。

消費税10%は高齢社会対策であったはず。高齢者の窓口負担の引き上げや、市販類似薬を保険給付範囲から除外することは国民誰しも望んでいない。高齢になっても日本で暮らして良かった、幸福だったと思える制度改革が望まれる。

（進士雄二）

## 健康食品との関連が疑われる健康被害情報共有事業について

～体調不良や治療への影響などの情報について提供をお願いいたします～

「健康食品との関連が疑われる健康被害情報共有事業」は、東京都医師会・東京都薬剤師会・東京都が協力して平成18年から行っている事業です。健康食品との関連が疑われる健康被害情報を収集し、収集した情報は東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会において検討し、健康被害の未然防止・拡大防止につなげています。

## 1 報告事例について

平成18年7月1日から令和元年11月末までに報告があった375事例の内訳は以下のとおりです。

医師会	171人	延べ	244製品
薬剤師会	120人	延べ	131製品
計	291人	延べ	375製品

一人で複数の製品を摂取していた人がおり、延べ製品数は計375製品でした。具体的な症例としては、発疹・発赤、胃腸障害、肝機能障害等が挙げられます。

## 2 情報提供のお願い

健康食品情報共有事業については、より一層の情報の蓄積が必要です。健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集について、さらなる取り組みの推進を図るため、一層のご協力をお願いいたします。

## 【報告方法】

様式「健康食品」情報共有シートを公益社団法人東京都医師会へ提出する。

## 【重要項目】

- 送信者情報
- 摂取品に関する情報（※製品の特定に必要な情報）具体的な製品名、製造者名
- 患者情報（具体的な健康被害症状。基礎疾患、服用医薬品等）

※「健康食品」情報共有シートは、東京都医師会ホームページよりダウンロード可能です。  
[https://www.tokyo.med.or.jp/health\\_foods](https://www.tokyo.med.or.jp/health_foods)

## ■お問い合わせ先

東京都健康安全研究センター企画調整部  
健康危機管理情報課食品医薬品情報担当 TEL：03(3363)3472

都医からのお知らせ  
INFORMATION

## 第113回東京小児科医会学術講演会

問合先 東京小児科医会事務局 TEL:03-5388-5220

日時▶3月15日(日)13時～17時

会場▶東京医科大学新病院9階講堂

講演▶①「オリンピックを見据えての輸入感染症対策」今村顕史(都立駒込病院感染症科)②「かかりつけ医だからこそできる小児救急初期治療」岸辺 峻(都立小児総合医療センター救命救急科)③「新生児聴覚スクリーニング 一人生最初のきこえの確認として捉えましょう」森田訓子(帝京大学耳鼻咽喉科)④「乳児の栄養を考える 一液体ミルクも含めて」伊藤直樹(帝京大学小児科)

取得単位▶新専門医制度①専門医共通講習 ii (感染対策)・④小児科領域講習単位 iii、参加単位 iv-B 1単位、日医生涯教育制度3単位、日本小児科医会地域総合小児医療認定医生涯研修単位5単位

参加費▶会員3,000円、非会員5,000円

## 東京内科医会 第33回 医学会

問合先 東京内科医会 TEL:03-3259-6133

日時▶3月21日(土)14時30分～18時20分

会場▶東京都医師会館 2階講堂(東京都千代田区神田駿河台2-5)

プログラム1▶「学術及び臨床研究発表」(東京内科医会会員発表)

プログラム2▶教育講演①「低血糖を起こさない糖尿病治療にむけて ～CGMの知見をふまえて～」西村理明(東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授)②「動脈硬化性疾患診療における中性脂肪のみかた」木庭新治(昭和大学医学部内科学講座 循環器内科学部門 教授)

参加費▶3,000円(自由参加制)

取得単位▶日本医師会生涯教育制度2単位、日本内科学会認定総合内科専門医更新単位2単位

## 第443回 国際治療談話会 例会「医療機器開発の現状」

問合先 (公財)日本国際医学協会 事務局  
東京都世田谷区上馬1-15-3 MK三軒茶屋ビル3F  
TEL:03-5486-0601 FAX:03-5486-0599  
E-mail:admin@imsj.or.jp URL:http://www.imsj.or.jp/

日時▶3月26日(木)18時～20時

会場▶学士会館2階202号室(千代田区神田錦町3-28(駐車場無料)) TEL:03-3292-5936

開会挨拶▶石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)

司会▶近藤太郎((公財)日本国際医学協会 常務理事)

【第1部】講演①「医療機器レギュレーションの最近の話題 一我が国発の技術を活用した革新的医療機器の実現に向けて」中井清人(厚生労働省 医薬・生活衛生局 医療機器審査管理課長)講演②「経済産業省の医療機器産業政策の現状」富原早夏(経済産業省 医療・福祉機器産業室長)【第2部】感想「アンガーマネジメント 一価値観の違いを受け入れ合い怒りのない世界を作るために」正岡紀子(オフィス オランジェ 代表)

会費▶維持会員/賛助会員5,000円、非会員7,000円、学生2,000円

取得単位▶日医生涯教育制度1単位(カリキュラムコード:0、9)、(公財)日本薬剤師研修センター認定薬剤師制度1単位

## 2020年度 慈恵医大月例セミナー(日本医師会生涯教育講座)

申込・問合先 慈恵医大生涯学習センターまたは慈恵医師会  
TEL:03-3433-1111(内線2634・2636)

会場▶慈恵大学病院 中央棟会議室(8階)

開催日・内容▶①4月11日(土)「網膜剥離」渡邊 朗(眼科 教授)、「夜間頻尿」古田 昭(泌尿科 准教授)②6月13日(土)「海外から持ち込まれる感染症」保科齊生(感染制御科 助教)、「災害医療の初期対応」大瀧佑平(救急部 助教)③11月14日(土)「アレルギー性鼻炎について」遠藤朝則(耳鼻咽喉・頭頸部外科 助教)、「食物アレルギーの予防法」浦島充佳(分子疫学研究部 教授)

時間▶16時～18時

注)一部変更する場合があります。

## 医師国保からのお知らせ

## がん予防対策の推進について

～当組合はデータヘルス計画に基づいてがん予防対策を重要な課題としています～

- 生活習慣を見直してみましょう  
タバコは吸わない、お酒はほどほどに、適度に運動する
- 定期的に区市町村等で実施しているがん検診を受けましょう  
乳房エコー検診を受けた方に対し、かかった費用の一部を助成しております  
詳しくは、組合報でご確認ください

保健事業の申請書は当組合ホームページよりダウンロードできます  
[www.tokyo-ishikokuho.or.jp](http://www.tokyo-ishikokuho.or.jp)

東京都医師国民健康保険組合 ☎03-3270-6431 (総務課)

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医<sup>ニュース</sup>NEWS

2020

Vol.  
648

## 地区医師会長からの一言

# 医師会の使命

八王子市医師会長 石塚太一



小学校5年生の国語の授業だったと思う。宮沢賢治の作品が教材であった。彼は童話の創作の傍ら、花巻の農学校で教鞭を執っていた。ある日、授業の中で「人間は何のために生まれてきたのか」という問いを生徒達に投げかけた。生徒の一人が聞いた。「先生はどう思うのか?」と。賢治は「人間はそれを考えるために生まれてきた」と答えたという。子ども心に詭弁だと思った。が、答えは見つからず、以来、頭の隅っこにいつもこの問いが残っていて、何かの折に蘇ってくるのである。

医師会長を引き受けるにあたり、この問いがまた蘇ってきた。今度は「医師会は何のためにあるのか」という問いである。会員が会費を供出して運営しているのだから、会員のための組織なのかもしれない。日本医師会は学術団体なのだという。その下部組織だからやっぱり学術団体なのかな? 答えが出ないまま、会長を引き受けて1年半が過ぎた。このごろは「幸せになるために誰もが生まれてきたんだよ」というさだまさしの「命の理由」という歌の歌詞にうなずいている。振り返ってみて、医師会の仕事はすべて健康を守ることで皆を幸せにしているのだということに気がついた。言い換えれば「誰をも幸せにするために医師である自分があり医師会がある」と言ってもいいのかもしれない。

そういう仕事をしているのに、医師会のイメージはすこぶる悪い。ボランティアに近い形で働いているのに評価されない。マスコミで取り上げられる医師会はたいてい圧力団体、利権団体、反対勢力などというマイナスのレッテルを貼られている。医師はほとんどが保険診療の中で仕事をしている。宣伝は厳し

く制限されているのでPRをしたことがない。従って下手である。少し前から市の広報などで医師会の関係するものについて「協力・八王子市医師会」と書いてもらうようお願いした。市民に気がついてもらえれば少しはイメージアップになるかなと期待している。もう少し積極的な手段として年1回の市民医学講座の回数を増やしたり、ホームページの内容を面白く役に立つようにして利用してもらい、市民との垣根を低くしたいと考えている。

さて現在、日本の出生率は1.42と低迷している。将来予想によると日本の人口はどんどん減って、しまいには日本が消滅するなどと言う人もいる。日本の人口は江戸時代には約3千万人だったと言われている。明治維新からの百年で3倍以上に増加したのである。世界全体では人口は増えているが、そのほとんどが発展途上国であり、先進国では減っている。日本は高度成長社会、デフレを経て成熟した国への転換期にあるのではないだろうか。先の大戦後に急激な出生の増加があった。出生率が社会情勢に大きく左右されることは歴史が証明している。子どもを産み育てるのに良い環境になれば出生率も改善し、やがて人口ピラミッドは釣鐘形に収束していくだろう。それを我々は見ることができないが、種は今のうちにまかなければたどり着くことはできない。

これからの住みやすい社会を作っていくのは政治の役目である。医師会に課せられた使命は医療のプロとしての的確な提言を行い、子孫が幸せに暮らせる未来の土台を築くことだろう。